

【防災メモ】

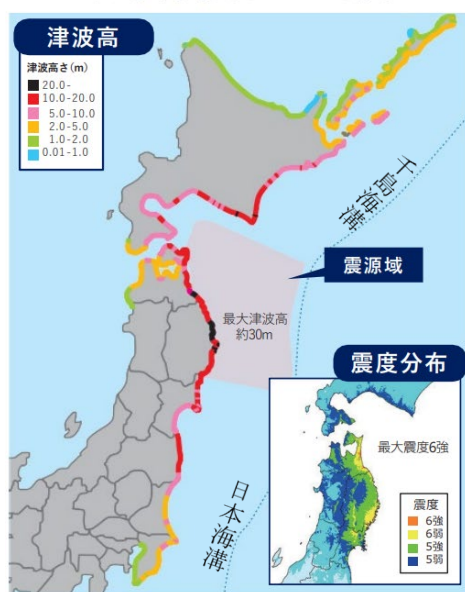
～日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震と「北海道・三陸沖後発地震注意情報」～

○日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震

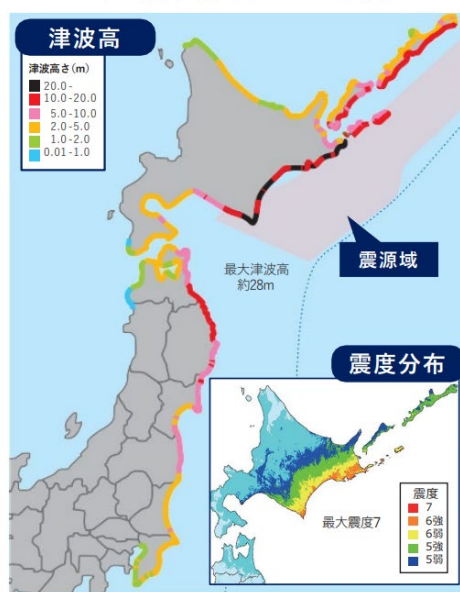
日本海溝・千島海溝沿いの領域では、過去に大きな地震や津波が繰り返し発生しています。津波の痕跡の調査から、平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の大津波に匹敵するような最大クラスの津波は、約 300～400 年間で発生したと推定されており、17 世紀に発生した前回の巨大地震・大津波からの経過時間を考えると、最大クラスの津波を伴う巨大地震が切迫していると考えられています。

この巨大地震・大津波が発生すると、東日本大震災を大きく上回る人的被害が発生する恐れがあります。特に冬季に発生した場合、北海道では、吹雪や積雪により避難に時間を要することや、屋外や寒い屋内での避難は低体温症のリスクが生じるといった、積雪寒冷地特有の課題があります。ただし、事前の備えと迅速な避難を行うことで、人的被害の 8 割は軽減可能とされています。

日本海溝沿いの地震



千島海溝沿いの地震



最大クラスの地震で想定される津波と震度

○北海道・三陸沖後発地震注意情報

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震は、そのほとんどが突発的に発生するため、平時から防災対策を徹底することが重要です。一方で、この領域では、マグニチュード (M) 7クラス以上の地震（「先発地震」と呼びます。）が発生した後、数日程度の短い期間において、さらに大きなM8クラス以上の大規模な地震（「後発地震」と呼びます。）が続いて発生する事例が確認されています。このことから、この領域でモーメントマグニチュード (Mw) *7.0 以上の地震が発生した場合に、一人でも多くの人命を救うため、後発地震への注意を促す「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表すると共に気象庁・内閣府の合同記者会見を実施します。

なお、この情報が出たとしても、実際に大規模な後発地震が発生するのは世界的な事例を踏まえると

100 回に 1 回程度であり、必ず発生するわけではありません。情報が発表された場合は、社会経済活動を継続した上で、地震への備えの再確認や、すぐ避難できるように準備するなどの防災対応をとるようにしましょう。

※断層の面積やずれの量などをもとにして計算されるマグニチュードを、モーメントマグニチュード (Mw) と言います。地震情報等で速報的に報じるマグニチュードよりも物理的な意味が明確で、地震エネルギーと対応が良いですが、算出にある程度の時間を要します。

北海道・三陸沖後発地震注意情報



■ 発表条件
想定震源域で Mw7.0 以上の地震が発生
※その周辺でも地震の規模によっては発表

■ 発表方法
気象庁・内閣府の合同記者会見

■ 防災対応をよびかける期間
地震発生から 1 週間

■ 発表の頻度 (想定)
概ね 2 年に 1 回程度

■ 防災対応をとるべきエリア
津波高 3 m 以上または震度 6 弱以上が想定される地域など ※左図の着色された市町村

※この情報は、大規模地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっていることを伝える情報であり、情報が発表された場合でも後発地震が発生しない可能性が高いことに留意。

巨大地震が発生した場合に、北海道から千葉県にかけての広い範囲で想定される甚大な被害に対し、1 週間程度、備えの再確認や迅速な避難態勢の準備を。

枕元に靴等を置いて寝る



すぐに逃げ出せる態勢での就寝

インターネット



非常持出品の常時携帯

インターネット



緊急情報の取得体制の確保

崩れやすいブロック塀等に近づかない



想定されるリスクから身の安全の確保

し字金具



日頃からの備えの再確認

地震への備えの再確認とすぐ避難するための準備

○参考 URL (気象庁 WEB サイト)

- ・日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震について

<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/nceq/index.html>

- ・「北海道・三陸沖後発地震注意情報」について

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/nceq/info_guide.html

